

漫
録

故中央大學學長岡野男爵追懷錄(一)

去る十二月二十二日故學長法學博士岡野敬次郎男爵の一週忌日に當り中央大學に於て同氏の追悼式舉行後追悼演說會ありたることは既報の如くなるが當日の演說速記を逐次茲に掲げて讀者と共に更に故人の學徳を偲ふこととした勿卒の際演述者の訂正を仰くに由なく魯魚の誤りなきを保し難い其責一に編者に在り(編者識)

○

法學博士 松 本 丞 治

岡野先生の御閱歷、御性行等は周知の事柄でありますし、殊に今日御列席の方々はよく御承知の事柄であると思ひます、而して尙今日幸に完成を告げまして只今御靈前に供へてあります傳記が詳しくこれを語つて居るのであります、私は先生の御閱歷或は御性行等に就いては別に述べる必要はないかと考へます、私はたゞ自分一個から見ました先生、私の見た先生といふ事に就いて所見の一部だけを簡單にお話をいたしたいと考へるのであります、その結果といたしまして、私のお話は私一個の私事、一個の私情に亘ること頗る多い事と考へます、これは甚だ恐縮に感じまたお聞き苦しいことも多いかと思ひますが、どうぞお許しを願ひたいのであります、私が始めて先生の警咳

に接しましたのは明治三十二年大學に於きまして三年生として、先生の商法の御講義に陪した時であるかと考へます、當時學生間に於ける先生の評判は餘程嚴格な怖い方であるといふやうな話があったのであります、そのつもりで教場へ出まして、見ました所が、成程先生は嚴格な顔をしては居られますが何となく温情の氣を有つて居られることを直覺したのであります、而して先生の御講義は實に立派なものであつたといふ事につきましては云ふまでもないのであります、當時私は何をやるか、勿論學生として何等定まつた考はなかつたのであります、學問をやるか、或は實際的の仕事をするか、定めて居りませぬ、假に學問をするとしても何の學問を専門にするかといふ事については勿論何等定見はなかつたのであります、併ながら先生の御講義を伺つて居る中、ごうも商法が一番面白い、少くとも先生の御講義によれば、種々な問題を藏して居る、これから講究すべき事柄が多いといふやうな考を深く印象せられたのであります、その結果として、私は商法を専門に研究したいといふ考へを遂に定めた次第であります。細かい事は略しますが、私は學校を出ます少し前に先生のところへ伺ひまして、商法を専門的に研究したいといふ志望を申し上げました、その時先生のお話には、商法をやるには學校には教授としての席はないだらう、大學院に入つてたゞ勉強をしてゐたのでは不可ぬから、自分は今農商務省に居るが、役人になつて、自分のところで働いてはどうかと、當時先生は農商務省の勅任參事官を勤められて居つた、従て私はそのお指圖に従つて直に農商務省へ入りまして、先生御主宰の參事官室に席を置きました、その後明治三十六年に至りまして、大學の方で教授の席があるから移らぬかと仰せられました、それによつて直に移つたの

であります、その後大學に奉職して居ります間に大正二年の山本内閣で先生が法制局長官になられた節兼任参事官として法制局で働いて見ないかとお話がありました、これも直にお指圖によつて法制局へ参つた次第であります、その後私は大正八年に職を辞しまして満鐵の役員になりました、さうして十年にこれを辭職いたしました、この節もまた總て先生のお指圖によつたのであります、殊に辭職についてはなかく許されません面倒がありました、先生が種々忠告を與へて下さいます、辭職の意を遂げさせて下さることの御助力があつたやうな次第であります、その前大正六年に先生はこの中央大學の學長になられた節にやはり私にお話がございまして、理事として助けてくれぬかといふやうなお話がありました、これまた直にお指圖によりまして幸に理事に選ばれることになりました、暫くこの學校に於て働いて居つた次第であります、また満鐵辭職後に於きまして、私は第二次の山本内閣に於て法制局長官を極めて短かく勤めたのであります、これまた當時文部大臣としての先生が居られた、その御推輓によつたことはいふまでもないのであります、最後に先生の御指圖によつて行動したのは辯護士として登録を一昨年暮にいたしました、また昨年春關西大學々長といふことになりました、これ皆先生の御指圖によつたのである。實は關西大學に就職することに就きましたは、私は多少進まなかつたのであります、先生のお指圖によつて、これに向つたやうな次第であります、その他或は破産法の起草に與りました、或は民事訴訟法の委員になりました、或は法制審議會に於ても、法律改正の調査に従事します等、總て先生の或はお勧めにより、或は御推輓によつてこれをいたして居るのであります、私は大學を出しまして以

來只今まで出所進退一として先生のお指圖によらざるものかないのであります、私は自己の公人としての出所進退を定めるに就いて曾つて自分として考へたことはない、何んでも先生のところへ行つて伺ふ、先生の仰せられる通りして來たつもりであります、然るに昨年先生を失ひまして、私は今年五十になります、昔、孔子は三十にして立つといはれた、私は五十にして立つので、これまでは總て先生に頼つて居つたので、自己の自由意思は全くない、意思能力は有つて居らなかつたやうなものであります、總て先生の考へられる通りに意思を決定して、さうしてそれを履行して來たものであります、何が故に私は左やうにいたしたかと申しますと、先生位に徹底的に物事を考へられ、好い意見を定めて下さる人は他にない、私自身では到底いくら考へても先生の考へられるやうに徹底的には考へられない、また先生ほど深切に人のことを考へて下さる、少くとも私に對しては御自分の事と同じやうに、或は同じ以上であるかも知れませんが、よく深切に考へて下さるといふ事の他には勿論ない。自分が考へるよりは先生に考へていたゞく、それに頼つて居れば宜しいといふことで、只今まで左様に進退をして來たやうな次第であるのであります、少くとも私に對しては先生ほど深切な方はなかつた、先生を失つた際には實に再び自分の父を失つたやうに考へた次第であります、先生の御性行の一端は私が只今申した事で、私の一個から申しました觀念としては盡きて居るかと思へるのであります、先生の頭と申しますか——に就いて、私はどう見たかと申しますと、その前に先生のこれも御性行といふことでも少し申すべきことがあるか知れませんが、即ち先生は只今申したやうに非常に深切な方である、従て少くとも私に對しては叱ら

れたといふ事は殆どないのであります、私の記憶ではたゞ二度叱られて居ります、その叱り方は大變に通常の叱り方とは違つたやうに思ふ、一遍のは私が農商務省奉職中でしたが、私は酒を澤山飲みまして、甚だ悪い役人でありまして悪くすると四五日も續けて役所へ出ないやうなことを始終いたした、これは決して若い方にお勧めは出來ない、私の甚だ悪かつたことであります、或る時數日續けて出ませんでしたら、丁度具合悪く私の出た日に先生がやつて來られて——先生は毎日出て來られなかつたのであります、この日は既に出て來て居られて、さうして役所にはやはり時々は出た方が好いやうだといふやうな意味のことをいはれた、これは餘程私には強く應へて、非常にひどく叱られたと同じ、或はそれ以上に感じたのであります、もう一遍叱られましたのは外國へ參りまして、留學生時分、やはり相變らず酒を飲んで不都合であつたが度々手紙を戴きましたが或る時の御手紙では、ごうも私の家へ行つて見舞つてやつたが母親などが大分健康等について心配をして居るやうだ、外國に居るんだから多少注意したらごうかといふやうな事の婉曲な長い手紙を戴いた、これまた非常にひどく叱られたかと思つて、強く感じたのであります、私は覺へて以來或は小さい事を一寸叱られたことはあるかも知れませんが、今覺へて居る以外には餘り叱られたことはない、その叱られる事たるや、さういふやうな調子で決してひどく激烈に叱られるといふことはなかつた、これまた先生の非常に深切な點であらうと思ふ。只今申したやうに私の出所進退は總て先生の御意見によつて居りましたが、學問上のことは勿論私の意見もあり得る、時に或は先生と説を異にすることもあり得たのであります、從て先生と議論を上下するといふと大

變に大袈裟でありますが、先生の教えを受けたことがあります、多くの場合に於ては勿論先生の諄々としてのお話を聞き私の蒙を啓いた事もあります、時に或は遂に先生の御意見に従ひ得ないこともあつたのであります。さういふ時でも先生の徹底的の御議論殊に根がよい事には負けてしまふ、何時間でも同じ問題に就いて表から、裏から、種々論ぜられるとどうも自分の方が間違つてゐないと思つても遂にその場では一先づ閉口するといふことが屢々あつたのであります、私が覺へて居ります事について先生と遂意見を異にして居つたといふことは農商務省奉職中或る事件について一回あつたのであります、數日間先生の議論を伺ひまして私も承服しないで、その時はその事件はその儘になつて居つたやうであります、また破産法起草の際に種々な點で議論もありましたが、訴訟の何かの問題について先生と考へを異にしてこれも大變御議論があつて、數日議論をしたといふ、その際に私の議論ではない、加藤君の議論で、加藤君と二人で述べた立てので、君等二人でさうまでいふなれば譲つておかうと、只今の破産法は譲つていたゞいて出來た、長い議論をしたのはその二點であると思ひますが、若し私が先生の位地に居つたなれば少くとも私のやうな疴癢持ちなれば荒く怒つて叱付ける譯であります、先生は決してそんなことはない随分お怒りになつて居るかと思ふやうなことがあります、先生は決してそれを外へは出さない、いかにも對等の人間に對してよく議論をするといふやうな具合で、議論をされた、是等の寛容の徳といふものは到底我々の及ぶところではなかつたかと思ふのであります、先生の頭といふことを先程申しました、先生は實に絶大の記憶力を有つて居られたやうに思ひます、細かい事で申せば種々細かいことまで

覺へられて、殊に約束をいたしました日だとか時間など先生は手帖などへつけられることがない、後でおつけになるか、どうか、其は何ひませんでしたが、最初は忘れられやしないかと心配をするのでありますが、一回も忘れられたことがない、私は長い間接觸して居つてさういふことがない、私など約束をするや否や帖面を出してつておく、必ずつけておきますが、その帖面を見ることを忘れて遂に約に背くといふことさへあるのであります、帖面も何にもつけずに覺へて居る、さういふ具合で、従て議論などにもそれが出る、此方がいつて忘れて居ることを先生が覺へて居られる、いつかは斯ういつたが、それでは辻褃が合はぬぢやないかといはれる、この絶大の記憶力といふものは比類なく、また徹底的に考へられる思考力、これまた比類なく、表から、裏から何處の隙まで考へられる、これまた何人も及び得ない頭を有つて居られたと思ふ、先生はわかりは早かつたか、どうかといふと、私は先生は農商務省時代にはわかりは早くなかつたやうに思つて、常に左やうに思つて、先生は非常にえらいけれども、わかりが少し遅いなど思つて居つた、ところが破産法起草のやうな時になつて、また屢々先生と話をしてみるとわかりが早くなつて居られる、一番わかりの早い方で、その後最近民法の改正などについては一緒に働いた時分尙更わかりが早くなり、一寸したことをいひかけると、すつかり分つて居られる、然らばわかりが早くなると共に記憶力が減退されたかといふと、さうではない、その方は元の通り、さうしてわかりが早くなつた、先生の晩年の頭といふものは私の知つてゐる範圍では無類、あゝいふ頭の方は私の知つてゐる範圍では何處にもないやうに考へるのであります、而してまた先生は境遇が變られると共に直に、それ

に伴つて研究をなされたと思ふ、従て先生の識見は晩年に至つて高く且つ廣くなられたやうに思ふのであります。殊に内閣に二回列せられまして、後の如き、政治、財政、經濟といふことに就いても先生は餘程御研究になつた事と思ふ、其等に就ては非常に立派な意見を常に立てられたやうであります、具體的に申すことは長くなるから申しませんが、左様に私は感じたのであります、要するに先生の如く深切な實に立派な人格を有つて居られる、また先生のやうな無類な頭を有つて居られる、而して非常に高く且つ廣い識見を有つて居られるといふ人は私は先生に別れて後は遂に發見し得ない、私一個はさう考へて居るのであります、この頃御承知のやうに時局頗る多端、一國の大政を果して擔ふ人何處に居るか、ごうも私は日本は甚だ狭い故か、さういふ人を發見するに苦む若し先生が居られたならといふ事を常に考へて己まないものであります、私一個の私情から先生の如く私に變つて總ての意思を決定して下つた深切な指導者を失つたといふことに就ては實に悲嘆に堪へざると共に公人としてもまた我國の爲にこの時に於て先生を失つてしまつたといふことは實にいふべからざる損害であるといふことを痛感するのであります、それを思ひますと追悼の一層切なることを覺へる次第であります、私一個から見ました先生といふことにつきましては種々お話ししたいことは勿論澤山ありますが、時間も制限があらうと考へますので、極めてその一端だけを簡単に申上げた次第であります(拍手)

○ 第一生命相互 矢野恒太
 保險會社々長

もう大變皆様の御追悼の辭が重なりまして時間も無くなりました、私共申上げることもないのでありますが、學者の人ばかりであります、無學者の者を代表して誰か一つお話するのがよいといふ事であると存じます、で無學者を代表して一言申述べたいと思ひます、斯ういふ哀悼の演說會とか、或は故人の傳記とかいふものを讀みますと、讀んでゐながら何だかくすぐつたいやうな、いやな感じがして非常に堂々と演說されて居るのに聞くに堪へないものがあります、傳記などを見ましても何でも彼でもその人がやつたやうに書いてある、どうも傳記とか追悼演說にはおまけがついて居りまして、甚だ心持のよくないのが多いのでありますが、私は生れて以來今日まで今日の追悼の御講演を伺ふこと竝にこゝに岡野君の御靈前に供へました傳記、これはまだ精讀はいたしません、これに書いてありますこと、自分も少しばかり感想を思ふまゝ書いて出したのでありますが、これは誠に心持よく書いて、またこゝで伺つても實に私はじめ皆様が非常に謹聽してお聞き下すつて居るといふことを深く感ずるのであります、そこで今更岡野君がえらい人であつた、頭腦の明敏な人である、えらい功績があつたといふ事を、たゞみかけて申す譯ではありませんが、學生諸君が澤山居られるやうでありますから、その爲に一言私から申上げて見たいと思ふのは今までの御演說をつめて申しますと、岡野さんは人格の高い、えらい人であつて頭腦の明敏な勉強家でもあり、また人格の人であるといふことであります、その非常に頭のよい人であつたといふ事は誰にでも出来ない事でありますけれども、その他の事は普通の事ぢやないかと思ふのであります、寧ろ今の世の中の人には餘り悪くなり過ぎて居る、普通の人間は岡野さん一人しか無かつた

やうに聞こへるのでありますが、殊にこれから先、前途を有つて居られる學生諸君に公私兩方面から見てといふと長くなりさうですが兎も角岡野君に學ぶべきところを一つ考へて戴きたいと思ひます、これは山田先生から最後に述べられた言葉と同じことでもあります、先づ私の方面から見れば學生諸君がこれだけ澤山居るが、この學校へ來て居る外まだ澤山居りませうが、菅原手習鑑ぢやありませんが、山家育ちの碌でなしばかりで、諸君があるなれば已むを得ませんが、岡野君の薰陶を受けた人の中から一人や二人、或は五人や十人位は可なりの人間が出來さうなものだと思ふのであります、岡野君のやうになりたいといふ考へを有つて、どうしたら岡野君のやうになれるか、また岡野君のやうになるのが善いのか悪いのかといふ事を考へて貰ひたい、或は諸君は早く死ぬるか、百二十五歳まで生きるか知らないが、假に岡野君と同じく六十一まで生きて、私なり窪田君は同年で私達六十二にして斯の如く碌々たるものであります、岡野君のところまで行けば諸君は或る程度まで満足してもよい、もつとえらくなりたいと思つて居るか知れないが、若し岡野君がもう十年か、十五年生きて居られたらどんなになられたか、さうして岡野君のやうになるには何うしたらよいかといふ事をふり返つて考へると極めて簡單であります、その天倫の頭が善いとか判断力が善いとか、記憶力が善いとかいふことは、こいつは幾ら勉強してもいかぬ、有つて生れるんですから、仕方がありません、大勢の中には岡野君に負けない記憶力を有つて居る人もありません、思考力を有つて居る人もありません、またそれが無い人でも岡野君と同じ程度に人格を研ぐといふことは今夜からでも只今からでも出来る、それを研いで行けば岡野君と同じ

やうなところまで行ける私共は少し思付きが遅かつたのであります、これは私のたゞ推測かも知れないけれども岡野君のお父様が岡野君に名付けるに敬次郎を以てし岡野君の弟、即ち岡野君のお母さんのお里を嗣かれた方に敬藏といふ名前をつけ大層敬といふ字を好かれたのであります孔子時代にはたゞ敬といふ字と慎といふ字、慎は心のつゝしみ、敬は形の方——外形の方のつゝしみといふ意味に使つて、従て人を敬ふ、敬禮をするとかいふことに使はれて居りますが、兎に角非常に細心に注意して物を苟もしない、禮儀正しうするといふ意味がある、己れを守るといふ非常に注意深いといふ意味がある、孔子以來の儒學では、儒學の眞隨は敬の一字に留まるやうに主張した人がありますが、その敬の字を取つて居られる御家庭では、お父さんの心持の中には輕卒であつてはならぬ、よく言行を慎まなければならぬといふやうな、さういふ意味が岡野さんの家庭には漲つて居つたのぢやなからうか、これは岡野さんと話したのではないが、今日の若い人はやゝ物心がつくと下宿屋生活、だから學校でも餘りさういふ空氣がない、さういふ生活をして居らないから、敬といふ空氣にふれる事が薄いやうに思ふ、これは私が申しそこないかも知れないが、無學者の方から見ればさういふ事に見へる、それでこの敬といふ字の一端を岡野君にして見れば何事も苟くもしないといふ事は皆様がいひ盡されたことであります、頭腦のよいといふ事も敬といふ事からやつて來られたから、例へば物を教へられるに就いても、それが解つてから次へ行く、これを盈料といひます、水を流しても順々に進んで行く、それをごちやく／＼前の時間には何か教はる後の時間には何とごちやく／＼になつては分らぬ、頭が混亂してしまふ、それでは頭も善くなら

ぬ、記憶もよくならぬ、それは傳記の中にも私共調べて出して置きましたから、多分入つて居るだらうと思ひます、岡野君は將棋を稽古をする、大抵の者は——私もへぼ將棋の一人であります、君とやらうか、君とでは相だ、君とでは二枚落ちだ、相手次第でその時々によりますが、岡野君はさうぢやない、二枚落ちなら誰に向つても二枚落ちでなければやらない、それであらゆる手の變化、あらゆる定石を覺へてしまつていなければ次へ移らなかつた、今度は一枚落ちでやる、その時代にはそれでなければ誰にも相手にならない、それからたいまに進んで順々に稽古をされるんですから極めて簡單です、さういふやうに今の學校の教え方はいかぬので、所が岡野さんは數學をやつてから、英語をやるといふやり方なんです、つまり急がずにあわてずにやつて行かれるのです、これを政治について見ましても世間へ名を賣るといふでもなし、世間からえらくいはれるといふでもなし、所謂敬、すつかり自分を守つて内に充實するだけ努めて、少しも世間へ急いで賣出さうといふ考へを有つて居らない、曾て停車場へ見送りの非常に多い、葬式の非常に多いその事を嘲つて私に話されたことがあります、どうも停車場へ彼男が迎ひに来てくれたから、彼を用ひてやるとか葬式に來たから、彼を採用してやるか思はれては人間も往生だからねえ——といはれました、誠に御尤もで、よく我々も感じますが、妙な一圓か一圓五十錢の菓子箱を持つて來て俄に種々なことを頼む、それからその用が済むと一向顔も見せないといふ人があります、よしんば顔を見せてくれともべつに、頭をペコ／＼下げるから、俺のところの支配人に使つてやるといふ譯でもないが、さういふ事のよく分つて居るか分つて居らぬか、兎も角今の世相を見ると紛々としてそれがある、學

生の間にも、まだ學問を取入れなければならぬが、妙な物を雑誌へ書いて見たり、妙な演説をして飛上つてハイかつて居るが、それが何になるか、何にもならない、却て社會の害になつて居るものが多い、さういふ點は岡野君とならうといふ人は正反對のやり方で、岡野君のやうな人間になりたうと思ふならば岡野君のやうな眞似をしなければならぬ、また諸君は皆様の講演を聞いても岡野君のやうになりたいなど思へば岡野君のやつた跡をやつて行かなければならぬが、それは何うも近代の若い人のやり方とは違ふやうです、種々な先輩から尊敬を受けられても、それを以てもう自分が先輩するには及ばぬ、始めには僅に或る役人に就かれたが、或る時には内閣に穴がある、缺員があるから伴食大臣になる、さうして閣議を開くとなると、結局品物がよいから、その良い品物のところへ頼つて行つて相談をしなければならぬ、始めは伴食で入つた人が後には副總理——遂には總理も岡野君の意見を求めるといふ、私は岡野君がもう少し長く生きて居られたなら、總理になる人、またあゝいふ人を總理にしなければならぬと考へて居つたのですが、これから學問をなさる人は自分一身の上からも岡野君を一つお手本にしたら、岡野君が育英事業に従事され、殊に中央大學に力を盡された故人の盡力の甲斐が現はれて中央大學から、或はその他の學界から岡野君のやうな人が續々出て來るといふことは非常にまた岡野君も喜ばれる事だらうと思ふのであります、今丁度大臣の方の話になりましたから、公の方の事を一言申し上げます、先程松本丞治君がいはれました通り今の日本は實に大變な時であると思ふ、世界の現状はいふに忍びないと思ひますこの時に當つて岡野君のやうな人が本當に政治の中心に立つてくれたなれば日本は救はれやしない

かといふ感じがする、岡野君は必ずしもあらゆる方面に完全なる知識を有つて居るとは考へません。或は經濟上の智識に於ては先生の研究は行届いて居ないか知れないが、さういふことはよく調べて人の話を聞けば分る、分つて公平な考へを有つてあります、さうして何等これに對して自分が黨派を有つて居るとか、種々な利害に左右されて本當に國家の利害に反したことをするといふやうな考へを有つて居る人ではない、世間には公平な人がありますが、判断の出来ない人は何にもなりません、併しチャンと判断が出来るだけ秩序立つた明瞭の頭を養成して行つて、さうして公平な考へで仕事され、ば公人としては必しも各方面に専門の智識はなくともこれは各々専門の智識ある人の話を聞いて判断すればよいが、この點に於て岡野君はもう十年ばかり生かしておきたいと思ひましたが、併し亡くなりましたから仕方はないが、どうです、我々共岡野君の後を次いでやらうぢやありませんか、私は或はもう間に會はない年になつて居るかも知れませんが、若い人はこれから日本の前途は益々困難でありますから、公けに考へて非常な突つかい棒になるやうな大きな木があつたら、それは國家の爲に實に仕合せなことで、ところがそれが枯れた、その苗木は何百本、何千本——この中央大學だけでも何千本が有りますが、この苗木の中に三本や五本は大木になりさうなものが有るさうなものであります、お互に心掛けて故人の志を成し遂げたら岡野君は死んでも死んでゐないといふ事がいへます、公私兩方面から我々の學び、心掛けておかなければならぬといふ事を申述べて哀悼の辭に代へます(拍手)